

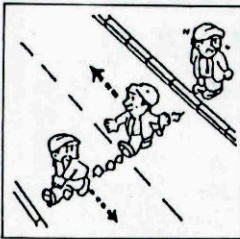
— 飲酒と過労はドライバーの大敵 —

酒を飲んで運転すると

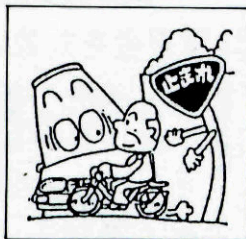
- ①注意の範囲が狭くなって、標識や信号を見落とす。
- ②速度感が狂い、スピードを出しがちになる。
- ③動作が乱れる。
- ④動作が先で、確認がすっぽぬける—動作優位の傾向が顔を出す。
- ⑤記憶の狂い、操作の度忘れ、記憶違いが激しくなる。
- ⑥ふだんの欠点があらわになる。
- ⑦自己規制がゆるんで、ルール違いの気ままな運転となる。
- ⑧ミスに対する自覚がなく、自信過剰の錯覚にとられる。

過労運転になると…

- ①ブレーキの踏みが甘くなる。
- ②イライラする。
- ③コックリ、コックリ居眠りをする。
- ④同乗者と話をするのがイヤになる。
- ⑤座り心地が悪く、イスをしきりに直そうとする。



▼ムダと思わずもう一度止まる・見る・待つ▲



防長路
**無事故でつなごう
ゆく年くる年**
— 年末年始の交通事故防止運動 —



■長門大津管内事故発生状況

(平成2年10月末日現在)

	(発生件数)	(死者)	(傷者)
長門市	96	1	114
日置町	12	1	12
油谷町	31	0	42
三隅町	26	0	31

町民文芸

短歌

三隅短歌会

(十一月)

枯れ果ててあきらめていし野
ボタンの紫紺の花は秋陽に揺
るる 臼井 麻子
激動の昭和の歴史しのびつ、
御陵を拝し感涙に満つ 堀 光太郎
地下道の風にあふられ紙屑の
吾を追越す朝の駅前 山中 敬子
冷雨降る始発のバスに揺れな
がら窓ごしに見る夫に手を振
る 立間 雅子
満月が波にきらめく大浜の沖
に鳥賊かとる漁火を見る 村田 敦子
今日もまた残業終えて通りゆ
く海に漁火さえてまたたく 小田 恵子
口につくみかん汁を袖に拭き
なほ黙々と子等の頬張る 石村 栄助
尊きの在なすらむかこの海の
黄金かねにたぎる波止場の灯あか
り 伊藤 一郎

俳句

清風句会

(十一月)

かまきりは枯るる命の芥を振
る 因藤 鬼史
祢宜の掃く宮鎮もりて神の旅
山辺より暮色始まる神の留守 岡 松月
秋祭抱かれて降りる稚児の騎
手 高崎はま子
拍手の音銚さびしき神の留守 宮垣 蕙女
天高し即位の礼や千代の春 山中 重女
山紅葉眺め眺めて出雲路へ 山崎 菊女
七曲り峠の茶屋に芭蕉の句 和田 英二
愛の鐘つけば響きて神の旅 沖村美智子
選者 追吟 富田佳津美
芭蕉忌や昼を灯して句友待つ

